

## 生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第4回）議事要旨

日時：平成16年1月14日（水）10:00～12:00

場所：市役所401会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

### 1. 前回準備会での調査指示事項等の報告について

事務局より配布資料について説明した後、質疑、意見交換を行った。

#### 《主な意見等》

中川委員：多くの自治体では、直接の事業費だけでなく、人件費と公債費を事業別予算にはめこむ努力をしている。それがないと政策評価や事業評価ができないので、いずれやらざるを得ない。行政評価について、経済性評価と効率性評価は数値化できるし、内部評価で十分対応できるが、有効性評価はそうではない。その事業をした事によって地域経済がどれだけ潤ったか、市民がどう変わったかというアウトカム（成果）を把握する必要がある。

森委員：単年度予算は問題があると思う。また、予算編成の際に、市の人口推計を見直す必要がある。

金谷委員：市の現状はわかったが、今後改善したいという方向が見えない。目標を出してもらいたい。

野口委員：今のご意見はこれから考えるべき市民のあり方の問題だと思う。今は行政がポジティブなプランを出してくれない方がいい。現状に対して、どのようにすればいいのかを市民サイドで考えられる仕組みをつくる必要がある。

鶴田委員：生涯学習について、枠組みとして生駒市は進んでいると思うが、結果に関するフィードバックはしているのか。「まちづくりアニメーター」の養成講座をされているが、指針が見えにくい。「まちづくり」は市において「生涯学習」それとも「市民活動」のいずれと認識されているのか、よくわからない。

上埜委員：生駒市では総合計画に示されている将来人口14万人を想定してまちづくりが進められているが、その時点での市民のあり方を考えていく必要がある。政策の有効性の評価については市民サイドから出せるような活動が必要。

相川委員：今の段階では、生駒の現状の報告を頂いたということで、どうするかはこれからのことになると思う。

中川委員：市民と行政サイドとは元々言語体系が違うし、立脚している文化も体系も違う。この場では、みんながそうだと言わざるを得ない提案をしていき、結果的にみんなが納得できる公明正大なルールを作るといふことでどうか。また、個人的意見であるが、入札参加システム、業者選定の基準や人事評価の基準、パブリックコメント制度の評価、公共事業の評価、再評価システムまで情報公開の対象とする必要があると考える。市民側も、単に是非を論じる次元から脱却し、市民の中で政策討論会ができる政策提案能力、政策評価能力、政策分析能力を持った集団を作ることが必要。そこまで構想するならば、政治参加する、行政経営能力のある市民をどれだけたくさん育てることができるといふことになる。公開、透明、評価、参加、経営がキーワード。

## 2. 市民参加（協働）のあり方について

市民参加、市民と行政の協働のあり方について意見交換を行った。

### 《主な意見等》

中川委員：行政側からの協働は市民下請け型の協働が多い。本来行政がやるべき責任がある仕事を、効率性やコストを考えて民間に移すのが民間委託。地元生駒市民がつくったNPOやコミュニティ団体に、他の法人企業と変わらず、市の事業を委託できるほどまでに成長して欲しいというのが協働の流れ。そのような団体が育っていないとすれば、市民サイドが問われることである。次に、市民がNPOを立ち上げたい、自治会を再生したいと思っても行政の支援が旧態依然になっていれば問題である。少なくとも小学校区単位以下の住民自治協議会ができているか。民間責任領域に行政がどのように支援するか。今までの協働システムをゼロベースで交通整理することも必要。3番目の領域として、市民祭りのような役所でも市民でもどちらでもなく、お互いの折半にするような中間領域がある。

森委員：今年生駒で一番問題になっているのは、高山第2工区のことである。まず協働という場合、市民が関心を持っているテーマを市としてどうするのかといふことが必要。

金谷委員：NPOでの活動経験から、イベントの開催など何事もやってみることが必要であり、行動の積み重ねで協働が生まれてくると思われる。

野口委員：協働のためには、共有できる文化を作っていくことが必要。その方法として、高山第2工区などの1つの問題を提起することによって、それを様々な場・単位で議論して積み上げていくのも1つ。議論することよりも共有できる文化を作っていく方法もある。お祭りもあるし、いろいろな方法がある。市民側からいうと、行政を巻き込んで作っていく文化が必要。

中川委員：具体的な政策については賛成、反対どちらの立場もあるわけで、意思決定に至るまでのプロセスをどれだけ共有する覚悟があるのかということ。市議会では、おそらく賛成、反対が決然としていて、十分な議論が行われていないのではないかと。議会で市民討論が再現できないから、市民自身が議論せざるをえない、そこに行政は出てこないという悪循環がおこっているのではないかと。原因は「公開」に対する中途半端さだと思う。議会も含めて情報の公開が徹底されているのか。今後、議会も自己改革がせまられると考える。

金谷委員：9月議会の議事録の閲覧をお願いしたが、閲覧できたのは12月議会の終わった後だった。議会と議会のつなぎの資料として議事録が間に合わない。高山第2工区について9月議会で従来の国と県の意見待ちの姿勢から、市の方から先に意見を出す姿勢に変わったと思ったが、その点の説明や質問が不足していた。

相川委員：議会は、常に住民の真意を反映する仕組みになっているとは私も思っていない。それを補完する、または並立する方法として住民投票があるが、条例については否決された。高山の問題については、政策の立案プロセスを含めて透明性がないように感じている。情報公開がどうしても必要。公開されれば市民参加が促進されていく。

中川委員：必要なのは情報の公開、政策のシミュレーション、つまり、やらなかった場合と、やった場合の、プラス効果とマイナス効果を比較選択するプロセスに市民参加すること。政策のトレードオフの中に住民が参加しなさいということだと思う。公共的現場における市民の参加というのは審議会への参加である。これは一定の割合以上は、完全公募とするという制度を導入すべきだと思う。市民公募で気をつけなければいけないのは、会議の趣旨を理解していない人が入る可能性があるということ。そのため会議が半年全く動かないということもある。選考過程も含めて公開すべき。公募で選任された市民がとんでもない発言をしても、全部会議録に残るので、本人が責任をとることになる。

鶴田委員：子どもの時から「生駒」のアイデンティティを持った市民としての自覚がもてるような環境整備が必要。生駒市には自習室がない。昔はあったのに利用者の一部に問題があったために無くなったと聞いた。行政の対応は、まっとうな人よりも、はずれた人に焦点が絞られていくことが多い。子ども達におかしいことをきちっと教える制度作りから、常識が育っていくと思う。

金谷委員：生涯学習の場に子育てが入っていけばいいと思う。それが生活に根ざした生涯学習になっていくと思う。高齢者のための場はたくさんある。そこへ世代間の交流の場を作っていけば、おもしろい。

中川委員：生駒市の課題は、中途半端に近代主義であるということ。壁を突破するとか乗り越えるところまでいかず、壁の手前で止まって安全を確保しているように思える。

相川委員：行政が果たすべき説明責任とは、行政にとって都合の良い情報だけでなく、悪い情報も

公開することである。

金谷委員：協働のためには良い面と悪い面、両方の情報を公開し、行政と市民がお互いに知恵を出し合っていていこうという姿勢が必要。生涯学習について、生駒市は学習行為だけで終わっていることが問題である。

中川委員：生涯学習は少数者の権利、人権を守るためのものである。その次に、多数の人達の喜びや楽しみも排除はしないが、これは十分条件であって、必要条件ではない。国際人権規約にいう教育を受ける権利、文化的権利を保障するのが生涯学習。労働・福祉も含む。各地域でどんな問題があるのかをリサーチした上で、生涯学習システムを提案していく必要がある。

上埜委員：確かに公民館や自治会館の利用には制限がある。掲示板は開放しているが、自治会館は地域の人を中心になって使っていて、他の地域の人が使うのは難しい。

中川委員：生涯学習については、単に個人の楽しみを実現するためのものかどうか市民にも問う必要がある。

金谷委員：提案がある。市のコミュニティセンターや図書会館、公民館などの市民が出入りするロビーに、市民がお世話をして、お茶を出せるカウンターを作るといのはどうか。自動販売機ではコミュニティは生まれにくい。市のパンフレットや資料が市役所3階にあるが、役所内にあるために、十分活用されていない。生駒駅の近辺に市の案内所をつくって、パンフレットをおき、市民が管理し、生駒に来られる方に資料を渡し、相談にのるようなものがつくれないか。

森委員：生駒は大阪・京都などとの交通の便が良く、多くの観光資源がある。きめの細かな新しい企画、工夫などによって観光集客を増やすことができると考える。一例だが、生駒駅の南北にアニメ風の見ることが楽しくなるような市内観光マップを制作してはどうか。

### 3. 今後の進め方について

今後の進め方について意見交換を行った。

#### 《主な意見等》

中川委員：今までの議論で制度的提案や問いかけが出たと思う。そこからキーワードを抜き出し、制度的な提案を抜き出せば、行政側のしくみと市民側のしくみが両方出てくる。行政側に期待されるしくみと、市民側で必要とし期待されるしくみの2つにわけて整理して頂きたい。それを基に中間報告としてのまとめにもっていかってはどうか。タウンミーティングについては、エリアがタウン程度ということで、やり方はシンポジウム、パネルディスカッション、講演会と何でもいい。小学校・中学校単位の人達に集まってもらって、まちづくりを考えてもらえる市民を何人かでもつくっ

ていくことがねらいである。その役割を、ここにおられる方にも助けて頂きたい。今回の議論では、「公開」がキーワードになった。請求されたから公開するのではない、制度として公開制度があるというだけの問題ではない。情報政策の問題である。広報などのシステムの改善が必要。生駒はケーブルテレビを持っているが、議会を中継してはどうか。

鶴田委員：議会については子どもの傍聴も必要。良い公民教育になるのでは。

金谷委員：最近議会の傍聴者が増えた。3年ほど前は2～3人だったこともある。

中川委員：議会公開という政策目標を掲げられたが、政策目標のアウトカム指標は傍聴者数の増加だから増えたら喜ぶべき。

#### 4．その他

各委員の日程調整の結果、次回会議は2月13日（金）9時30分からに決定。

その後、2月9日（月）14時に変更。

以上